

平安書道会事務局だより

平成三十一年正月号

会員の皆様には謹んで新年のお慶びを申し上げます。
今年は己亥、陰陽五行説をひくと、「己」は植物が成長してゆく状態をいいます。「亥」は「閉ざされる」という意味を持つので、合わせるに「現在の状況を維持する」歳。来年は百周年、大いなる跳躍のための準備の歳となるでしょう。昨年一年の行事をご紹介します。

《総会》

一月二十八日、京都駅前タワーホテルにて、総会が開かれました。平成二十九年の行事報告と三十年の事業計画、決算報告・予算案の報告があり、昇格者の紹介も行われました。総会後には懇親会が開かれ、新年を祝いました。

《第九十八回 公募展》

前年から続く美術館本館のリニューアル工事のため、今年は会場を、三条高倉の京都文化博物館に移し、第九十八回公募展が開催されました。平成最後の公募展です。

公募展としては初めて使う会場であり、準備期間も短く、運営委員は全員、「展覧会は無事に開催できるのだろうか？」と大変心配しましたが、搬入が始まると、委員一同の尽力の結果、準備は順調に進み、予定通り七月十九日午後より会期を開くことができました。皆様お疲れさまでした！

「壁面を飾る作品は抒情的で豊かな作品が多く、歴史の長さで懐の広さが感じられる」
（雑誌『墨』の評を借用）となりました。

二十一日には午後より会場内で授賞式が行われ、小学生から一般の方まで五十人が、賞状と副賞を授与されました。

同日六時半から柳馬場六角の「綿善」にて祝賀会が開かれ、受賞者への一言インタビューも飛び出し、会場を沸かせました。



photo.jp - 41701034

第九十八回 平安書道会書道公募展 特別賞受賞者		
平安特別大賞	伊藤山鳳	
平安大賞	上田桃苑	
平安準大賞	嶋田麻美	
神田喜一郎賞	村中黄葉	
綾村坦園賞	田谷妙子	
京都府知事賞	渡瀬大麦	
	茂岩芽依	小六
京都市市長賞	島喜久	
	津田あや音	小二
京都市教育委員会賞	高田暖和	小三
京都市教育委員会賞	細見歌音	小三
京都市教育委員会賞	西希星	小六
京都商工会議所賞	山本千尋	
	田中杏樹	小六
平安書道会会長賞	吉野遼	小六
朝日新聞社賞	菊岡雅香	
	谷川心菜	小六
毎日新聞社賞	川上志泉	
	大原幸樹	小六
読売新聞社賞	釋氏殊勝	
	東華帆	小六
京都新聞賞	西田雅芳	
	南川蒼良	小四
京都銀行頭取賞	南杏樹	小三
	石井暖也	小六
芸術新聞社賞	南凛花	小四
	宮越聖己	小五
墨運堂賞	中西薫子	小四
	川瀬徳華	中一
吳竹賞	板井晴香	小二
	板原みく	小二



平安特別大賞受賞作品 伊藤山鳳



平安大賞受賞作品 上田桃苑

《第三十八回 聚英展》

九月二十日から二十三日まで、京都文化博物館において聚英展が開かれました。平安書道会審査員による選抜展も、もうすぐ四十回を迎えます。漢字や仮名、篆刻に現代詩文など四十二点、小粒ながらも見ごたえある作品が並び、来場者の目を楽しませました。

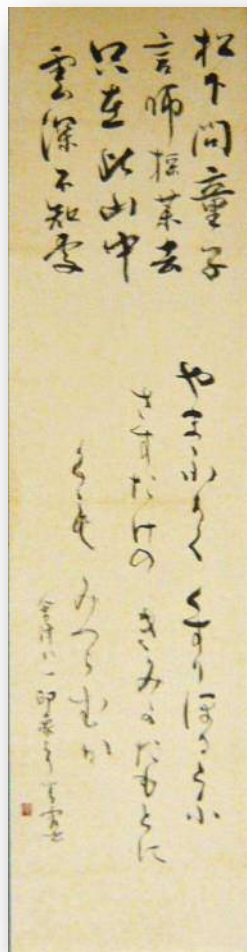
上田雅堂理事長作品



植田穂積会長作品



都賀田久馬副理事長作品



堀部青霄副理事長作品

《先人法要と筆供養 正覚庵》

十一月二十三日、東山東福寺塔頭正覚庵にて、平安書道会、先人物故者の法要が行われました。

毎年法要が行われる正覚庵本堂は、モダンな欄間と、どこことなく洋風な雰囲気がある、不思議な佇まい。白洲次郎の父で、明治時代に貿易商として財をなした白洲文平の近代和風邸宅「白洲屋敷」を移築したもの。と先日報道されました。

午後からは筆供養。集められた古い筆や鉛筆が炊き上げされました。いつものことながら東福寺界隈は紅葉見物の人で埋め尽くされていました。



《今年の行事予定》

一月十三日(日) 一時半
理事会 ハートピア京都
一月二十七日(日) 三時半
総会・新年会 京都タワーホテル
春(日時・場所未定)
公募展運営委員会(要項等配布)

九月四日(水)
第九十九回平安書道会公募展搬入
九月五日(木)〜八日(日)
第九十九回平安書道会公募展会期
京都文化博物館

十一月二十三日(土)
先人供養・筆供養 正覚庵

十二月
第三十九回聚英展 京都文化博物館

《ちょっとひといき》

大正九年のお正月に、平安書道会は、京都で生まれました。今年は白寿を迎えます！大正九年というと、第一次世界大戦が終わったころ、モダンやハイカラという言葉で表される時代でした。洋食が食べられるようになり、レストラン菊水も、この頃できたのです。

